

磐越道会津坂下ICから約10分。  
普通車は、国道から坂を上り虚空蔵尊近くの駐車が便利。

【トイレ】★  
【温泉旅館】●  
虚空蔵尊境内から湧き出る温泉を配給。弱塩泉。日帰り利用可能。



# 柳津の宿坊と地名、1

## 「六衆徒・六坊と三十六坊」

虚空蔵堂には、『新編会津風土記』に「六衆徒、六坊あり、徳一派にて仏殿の酒掃を勤む、何れも妻帯なり、昔は三十六ありしと云」

柳本坊(キッチン柳)

杉本坊

塔之坊(塔之坊あづまや)

岡本坊

月本坊(月本旅館)

杉本坊

櫻本坊(さくら本)

現在も宿坊として、塔之坊あづまや、月本旅館が四百年以上続いて営業している。

また、塔之坊あづまやには、慶長五年(一六〇〇)二月十四日、上杉景勝が宝前、参籠と武運長久を祈願し、巻数守と五明紅燭を上方へ送るよう塔之坊に依頼した文書がある。櫻本坊には、葦名盛氏が一五六〇年代に当月番の開帳、取目、能祈念。葦名盛隆時代に佐竹氏の使いの宿提供。伊達政宗時代の一五九〇年に畳、一三〇畳の提供依頼を櫻本坊に依頼した文書がある。

三十坊は、『会津鑑』に、至徳元年(一二三四)に法相宗から臨済宗に変わった時、坊が無くなったという。『会津正統記録』には二十七坊が無くなり、三坊が寺になったとある。廃止した二十七坊とは

- |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 高林坊 | 安貞坊 | 滝本坊 | 不動坊 | 般若坊 |
| 長雲坊 | 中禅坊 | 小覚坊 | 智長坊 | 大日坊 |
| 月祥坊 | 大杉坊 | 定林坊 | 明覚坊 | 一王坊 |
| 大楽坊 | 法光坊 | 弥勒坊 | 龍覚坊 | 一見坊 |

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 吉称坊 | 裕心坊 | 妙雲坊 | 西光坊 |
| 円覚坊 | 塔善坊 | 観音坊 |     |

があげられる。他に寺となったのは次の三坊  
日月坊、柳津郷戸村の華蔵寺  
正光坊、椿村の正覚寺(正光寺)永正十三年  
松徳坊、小野川村の正徳寺。永正十六年  
なお、廃止した坊について『柳津町史』の月光寺の伝承に『会津正統記』に書かれていないのが「竜(龍)童坊、明学坊、小学坊、西方坊、称徳坊」である。比較すると「竜童坊は龍覚坊、明学坊は明覚坊、小学坊は小覚坊、西方坊は西光坊」である。なお『会津正統記』にある「般若坊、一王坊、一見坊」は月光寺の伝承には無い。

## 脇庵の六院

脇庵として六院があった。『会津正統記』に

- 月性庵(今もあり)
- 建福庵(塔の前、薬師を安置)
- 月光庵、今の月光寺。元、月山寺という
- 龍沢庵(龍泉院) 龍沢寺。月光寺の北という
- 瑞光庵(廃止)川向かい、住山ともいう
- 示現庵(廃止)

『会津鑑』には月山庵、龍泉庵、見姓庵の名がある。月山庵は月光庵で今の月山寺。『会津正統記』に明応元年(一四九二)に月光庵を月光寺に黒川観音寺の隠居裕尊が開山したとある。

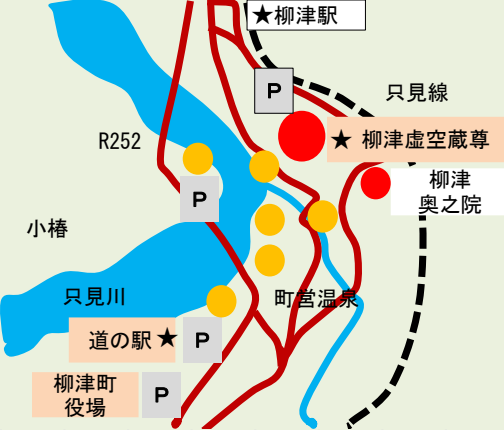
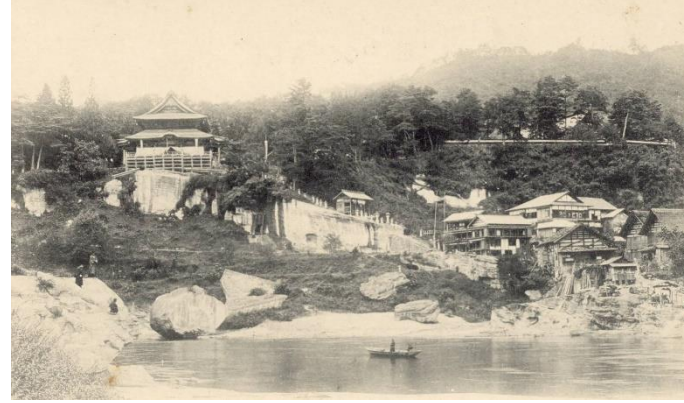
## 奥院 臨済宗妙心寺派

奥院、弁財天あり。国重要文化財

## 【只見川のゆがい】

江戸中期の『会津鑑』に「揚川」(阿賀川・あががわ)とは尾瀬沼から只見までを呼び、只見から片門までを「只見川」、片門より下流も「揚川」と呼んだとある。『会津正統記』に「大川ノ水源(みなかみ)を只見川ト名、下流ヲ新湯迄上乃川(あがのがわ)ト云ウ。後二揚ノ河(あがのがわ)ト改ム」とある。柳津の堂の前に「畳石」があり、「畳石の川」が「たたみ川」となり、後に「只見川」となる。

# 柳津の宿坊と地名、2



磐越道会津坂下ICから約10分。  
普通車は、国道から坂を上り虚空蔵尊近くの駐車が便利。

【トイレ】★  
【温泉旅館】●  
虚空蔵尊境内から湧き出る温泉を配給。弱塩泉。日帰り利用可能。

「六衆徒・六坊と三十六坊」

『会津正統記』

只見川(空海法師の伝)

「南岩坂ヨリ沖邑迄ヲ只見川。沖邑ヲ只見邑ト改ム」

柳津 「南岩坂ヲ柳津ト改メ、坂ノ上ヲ岩坂と名付ケ」 『新編会津風土記』には

「この村水辺に昔は楊柳多く、風致ありしゆえ名付しとぞ」

とある。柳が多い川の港(津)という場所

『会津鑑』

澤町

寺家町

中町

且過町

一王町(银杏町)

鍛冶町

岩坂町

中橋

新町

門前町

諏訪越(腰)町 諏訪神社の付近

柳津の地名『会津鑑』『新編会津風土記』より

明星水

中橋

竜泉院

奥之院

菊光塔(五重塔)『会津正統記』後、三重塔

竜蔵権現祠(菊光堂の西、坂上家の先祖)

柳津八石

宝珠石

明星石

燈明石

仁王門(南山門)

鐘楼

瑞光山

飯谷山

山居

魚淵

大日岩

鏡石(堂の下)

北山門

内川

山居

飯谷山

山居

飯谷山

飯谷山

飯谷山

円蔵寺の記録 虚空蔵堂は八代目という

「柳津圓蔵寺之記」「会津鑑」等より

至徳元年(一三八四)柳津、法相宗から臨済宗に大圭が改宗する。永徳三年(一二八二)とも

康応二年(一三九四)柳津塔造り替え供養される

永正十三年(一五三六)三月二十八日、堂塔及び民家焼亡

享録四年(一五三二)八月十日日本堂が供養され千部経が読まれる

天文四年(一五三五)人家並びに塔が焼ける

天文五年(一五三六)白髭水、坂下と塔寺の間水が八尺浸かり鐘楼が水に上る

天正七年(一五七九)三月七日夜堂が焼亡

文禄三年(一五九四)六月十七日洪水、舞台及び名のある大石七つ流れる

慶長十六年(一六一二)八月二十一日大地震、当寺並びに塔寺堂舎倒れ崩れる、この時、山崎前湖となる

元和三年(一六一七)先年倒れ崩れた塔堂並びに塔寺村観音堂建てられる、本願法界上人

寛永八年(一六三二)九月十九日洪水、十六日より大雨、白髭水のごとし、鐘楼が流され鐘川に沈む

寛永十八年(一六四二)七月八日大鐘鋳

慶安三年(一六五〇)三月大火

万治二年(一六五九)四月三日興徳寺と圓蔵寺が本末争い、圓蔵寺が敗れ僧が追放、入獄する

延宝五年(一六七七)十一月六日只見川より鰐口上がる、天正十五年に作られたものが慶長十六年の地震で川に入っていた

享保十年(一七二五)七月七日、虚空蔵堂修復成

就入仏供養、八月二十三日仏像開帳

安永九年(一七八〇)二月十四日圓蔵寺焼亡

文化六年(一八〇九)三重塔が落慶法

文政元年(一八一八)柳津大火、堂塔焼亡

文政十二年(一八二九)虚空蔵堂落慶法要

